

総合社会情報研究科博士前期課程における令和9年4月1日以降の各ポリシーは以下の通りになります。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

「現代社会の種々の活動領域で、高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独創的な学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的完遂のために、総合社会情報専攻（博士前期課程）においては、国際情報分野、文化情報分野、人間科学分野の3つの分野において、それぞれ以下のような知見と能力の修得を単位修得及び修士論文によって例証した者に、以下のとおり修士学位を授与する。

修士（総合社会文化）：国際情報分野、文化情報分野、人間科学分野（哲学領域、心理学領域、教育学領域）修了者

修士（人間科学）：人間科学分野（健康・スポーツ科学領域）修了者

なお、研究者にあつては、学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し、論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力を修得していることが求められる。実務家においては、それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力、及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力が求められる。

上記の内容を満たすために、それぞれの分野において求められる資質・能力は以下のとおり。

国際情報分野

国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経済・経営領域及び国際・政治領域で、指導的かつ先端的な役割を担い、国際化・グローバル化の現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力

文化情報分野

多文化多言語社会の中で、文化・文学領域及び言語学領域において、多様な価値を受容し、相互理解を深めながら、地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力

人間科学分野

哲学、心理学、教育学に亘る諸領域において、現代社会の根本的なニーズに対応し、人間存在の基本問題について、十全の認識・洞察を持って、問題解決に取り組むことができる資質・能力

健康・スポーツ科学領域において、人間存在の基本問題について、十全の認識・洞察を持って、問題解決に取り組むことができる資質・能力

上記の資質・能力を身に付けたかどうかについては、以下の学修成果により判断する。

①科目履修については、以下の内訳にて 24 単位以上を修得

(1)必修科目（研究法入門 1、研究法入門 2） 計 4 単位

(2)専門科目は、コア科目（12 単位以上）、選択科目（8 単位以上）の修得

②特別研究は、必要な研究指導を受け、以下の項目からなる修士論文の審査の合格によって、必修単位（6 単位）を修得

(1)研究目的、理論、研究方法、情報収集・処理の妥当性

(2)論旨の明確性及び独創性

(3)論文の統合性及び論証の一貫性

(4)研究成果の有意義性

(5)構成、形式、表現、表記の適切性

③面接試験による最終試験に合格

【教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

「現代社会の種々の活動領域で、高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独創的な学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的達成に向け、専攻・各分野において、次のような方針で教育課程を編成し、コースワークにて教育を行う。

①必修科目として研究法入門 1（2単位）及び研究法入門2（2単位）を設定し、質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の修得を実現するために、以下の内容を実施する。

(1)研究法入門 1 では、e-learning による通信教育（在宅学習・オンデマンド方式）

により、各分野に共通する修士論文の執筆、研究に必要な知識を修得する。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問への応答、レポートの改善状況、及び研究計画書（研究経過報告書）等により評価を行う。

(2)研究法入門2では、対面方式による講義の受講あるいは意見交換・ピアラーニングに参加するとともに、あらかじめ設定された課題についてレポートを提出すること

で必要な学修を行う。対面講義では、質疑応答を多く取り入れた双方向型の学修を行う。レポート課題では、国際情報、文化情報、人間科学に共通する研究に必要なテーマによる学修に加え、それぞれの分野において基礎となる専門知識あるいは研究方法の修得が可能となる基本書によって学修する。各分野の基礎となる専門知識は、国際情報分野では、経済・経営領域、国際・政治領域に関する知識、文化情報分野では、文化・文学領域及び言語学領域に関する知識、人間科学分野では、哲学、教育学、心理学の諸領域、及び、健康・スポーツ科学領域に関する知識である。学修成果については、対面講義における参加状況及び、最終レポートの完成度、作成過程における質問への応答、レポートの改善状況、等により評価を行う。

② 特別研究（6 単位）として、各専門分野において、必要な研究指導を受け修士論文を作成する。

③ 専門分野における選択科目（20単位）として、以下の内容で実施する。

（1）専門分野における選択科目の学修は、e-learning による通信教育（在宅学習）を通して実施する。学修は、各分野・各科目において選定された基本書に対してあらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型で進められる。なお、選択科目は、修了要件の範囲で全ての専門分野の科目から選択することができる。

（2）学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問への応答、レポートの改善状況、等により評価を行う。なお、専攻における選択科目の選定にあたっては、特別研究の指導教員が学生の希望を尊重したうえで履修指導を行う。

国際情報分野

① 専門教育として履修する選択科目（20 単位）は、経済・経営の領域においては経済理論を中心とした科目群、グローバル経営戦略を中心とした科目群、ファミリービジネス論を中心とした科目群、国際・政治領域においては国際政治論を中心とした科目群、現代政治論を中心とした科目群、及び他分野で開講される科目の学びを通じて、社会課題に対する見識、解決に係る固有の考えを向上させる。

② また、国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で、指導的かつ先端的な役割を担い、国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を修得するため、特別研究を必修科目（6 単位）として設定し、以下の内容を実施する。

・学位授与にふさわしい修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、マンツーマンの双方向型の学修を行う。

・学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等

により評価を行う。

文化情報分野

- ①専門教育として履修する選択科目（20 単位）として、文化・文学領域では、比較文化関連科目、日本・アジア圏文化関連科目、英語圏文化関連科目群を設定し、比較文学を軸に多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高める。言語学領域では、言語教育関連科目群、言語学関連科目群、日本語教育関連科目群、英語教育関連科目群を設定し、他分野で開講される科目とあわせて、国境を越えて移動する人々の言語と文化の様相を理解し、支援する能力を向上させる。
- ②多文化多言語社会の中で、多様な価値を受容し、相互理解を深めながら、地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力を修得するため、特別研究を必修科目（6 単位）として設定し、以下の内容を実施する。

・学位授与にふさわしい修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証(検証)、論証(検証)結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、ゼミ生同士の協働学修と教師と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。

・学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

人間科学分野

- ①専門教育として履修する選択科目は、それぞれの領域において、以下のように開講される。哲学領域では、人間の生き方と社会のあり方を追求する知力を育成し、現代社会の問題や人間の根源・幸福について論考を進める科目群、心理学領域では、心理学について十全の知識・認識を基盤にして、現代社会の根本的な課題とニーズに対応した問題解決のための検証能力をもった人材を育成する科目群、教育学領域では、教育現場で諸問題に対応できる理論的裏付けを持った実践的な対処策を策定・実施できる人材を育成する科目群である。また、健康・スポーツ科学領域では、医療・福祉、産業保健、及び生命科学に関わる分野において、ヒトの健康の向上とリスク管理のための支援システムを構築し、遂行できる人材の養成と、スポーツ科学理論を基盤に、スポーツの現代社会的問題を研究し、遂行できる人材を養成することにつながる科目群であり、いずれも、他分野で開講される科目とあわせて、それぞれの領域での研究・活動を実現できる能力を向上させる。
- ②様々な社会的活動領域において、現代の先端的なニーズに対応し、人間存在の基本問題について十分な知見を持って活躍できる資質・能力を修得するため、特別研究を必

修科目（6単位）として設定し、以下の内容を実施する。

- ・学位授与にふさわしい修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、ゼミ生同士の協働学修及び教員と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。
- ・学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

【入学者の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

- ①通信制の独立大学院として、国際情報分野、文化情報分野、人間科学分野の各分野において、現代社会の種々の活動領域で研究や仕事に従事しながら、高度な専門性を身につけ、新しい道を切り拓き、リードしていけるような人材を、下記の試験方法により受け入れる。
 - (1)論文試験により、各専攻分野について学士程度の知識をもち、提示された課題について所定の時間内に論理的に思考し、結論をどのようにするかを判断し、それらを文章として表現することを求める。
 - (2)口述試験により、より専門的な知識の修得、理解力、判断力、問題解決能力、リーダーシップ力、コミュニケーション力、自律的研究遂行能力を身に付ける可能性があるかどうかについて、判定する。
- ②総合社会情報専攻（博士前期課程）での学術生活において、①知識・能力、②思考力・判断力・表現力、③主体的で協調的な態度について、試験に基づく判断により、十分な水準を満たすことが求められる。
- ③上記の方針のもと、各分野では次のような学生を歓迎する。

国際情報分野

国際情勢の帰趨と世界と日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済・政治・行政・国際関係・言論等の分野で、指導的かつ先端的な役割を担う人材として、国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことを目指すもの。

文化情報分野

言語と文化の教育、文化翻訳、異文化間コミュニケーション等の領域において文化の受信・発信・媒介のエキスパートとして、より良いグローバル・コミュニティの創生に寄与することを目指すもの。

人間科学分野

哲学・教育・心理に係る諸領域において，現代社会に内在する問題について論考し，問題解決に取り組むことを目指すもの。

健康・スポーツ科学領域においては，健康・運動能力の向上に対し身体面・メンタル面から寄与することを目指すもの。